

第15回東京実技セミナー

スキルアップコース開催報告

～内容～

- ①安全に食べられるためのベッドサイドスクリーニング評価
- ②安全・安楽・自立を意図した食事介助の基本
- ③認知機能が低下した人への食事介助

～開催概要～

日時：2015年6月14日（日）

時間：9:30～15:30

場所：ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

アドバイザー・スタッフ：15名

受講者：29名

主催：NPO法人 口から食べる幸せを守る会®

共催：株式会社大塚製薬工場

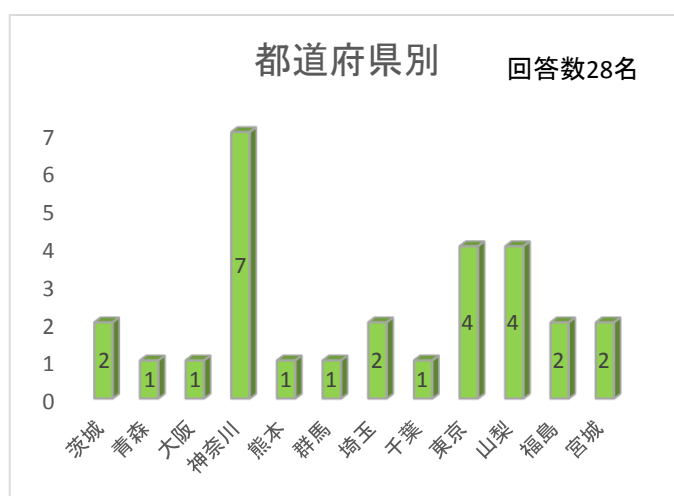
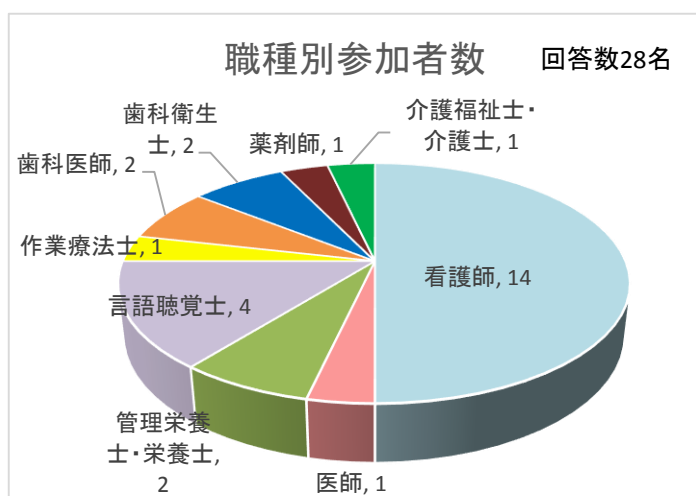
ラックヘルスケア株式会社

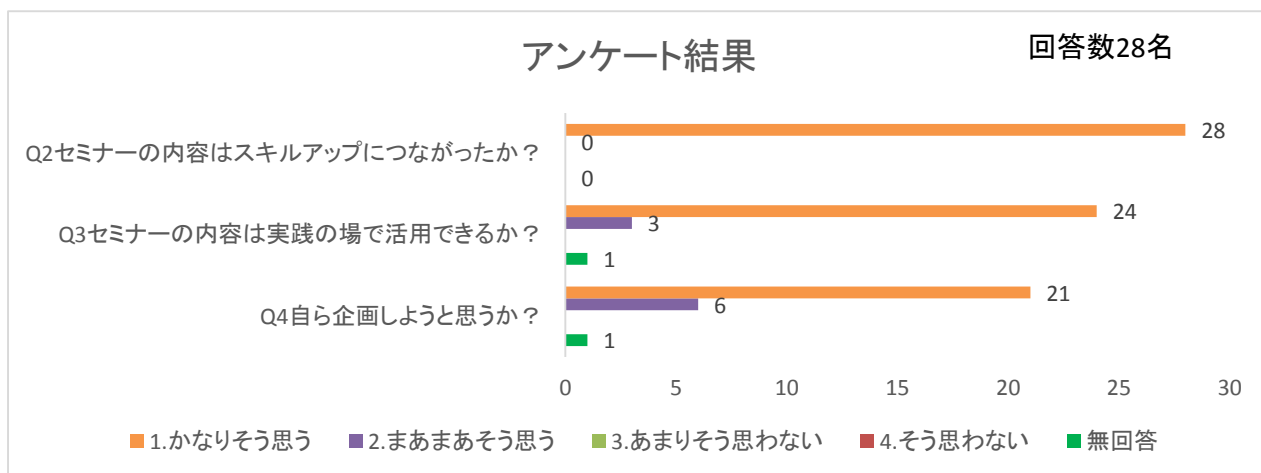
後援：株式会社クリニコ

日清オイリオグループ株式会社

渡辺商事株式会社

株式会社天柳





Q2 セミナーの内容はスキルアップにつながったか？

*姿勢調整やベッドサイドスクリーニング方法、声掛けにしても大切だと学んだ。なんとなく行っていたが根拠をもってできるようになった。

*体位の工夫や、1つ1つがなぜ必要なかを学ぶことが出来よかったです。口に運んで食べる行為の手伝いをしていたのですが、つもりでした。きちんとした知識を持って介助することが大切だと思いました。

*患者役になったことで、介助する際何気なく行っていたことゼリーやヨーグルトを混ぜる（クラッシュ状）ことは、誤嚥を助長することを知った。良姿勢の重要性がわかった。

*まずは口腔内のスクリーニングも大切だと感じた。食べれる環境づくりも大切だと勉強になりました。

*自分自身のレベルを感じることが出来、改善するポイントがクリアになりました。1つ1つクリアしてより勉強していく必要性を感じました。

Q3 セミナーの内容は実践の場で活用できるか？

*食事のスクリーニング方法。食べれないではなく、なぜそうなのかを考える患者様をアセスメントしていきたい。食事のポジショニングについて、枕の使用、安楽、安全な体位を保持していきたい。

*全身を見ること。口、顔だけに視点が行かないようにする事。ポジショニング（安全、安楽のために）の取り方（隙間を作らないこと）

*脳外で働いていることもあり、姿勢保持が困難な方が多くいます。まずは食べる前の準備としてしっかり姿勢調整が出来るように活用していこうと思いました。

*今まさに、経管から摂食に移行しようとしている患者さんがいるので、かなり細部まで学べました。

Q4 自ら企画しようと思うか？

*自分で地域に向けても嚥下・栄養について伝えていく場を作り始めているので、その中で食事介助についても伝える場を作りたい。

*まずは、病院内でスタッフの、技術のレベルアップを図っていききたい。病院内だけでなく、地域の病院、施設、在宅の連携を図っていききたい。

*仲間を増やしたい。同じ視点での介助が出来るように。

*誤嚥予防や窒息予防に関する、食事介助方法の勉強会を病院内で行う予定です。

Q5 今後取り上げてもらいたい内容は？

*病院患者さんの例だけでなく、退院後の支援や情報交換について在宅患者の例なども教えてほしいです。退院した患者をどうフォローしていくのか、地域の連携など。病院で拡大したが、自宅に帰り肺炎になり戻ることもあるため、よい例など。

*経口摂取と終末期判断の関わり。各職種での経口摂取・栄養方法の見解を、できるだけ同じ方向で見るためにはどうしたらいいか

*スクリーニングテスト時の嚥下音を健康な方と、そうでない方の違いを聞かせてもらって比較する。口腔機能向上トレーニングを含め、症例より日常生活のQOLが向上されたケース。上手くいかなかった（改善点がある）ケースも含めお話をお伺いしたいです。

～セミナー中の様子～

演習のグループごとにお写真を撮らせていただきました(^^♪





参加者の皆様・関係者の皆様ありがとうございました。

NPO 法人口から食べる幸せを守る会

